

福生市基本構想（第4期） 中間答申

【目次】

第1章	福生市におけるまちづくりの課題	1
第2章	まちづくりの基本理念と都市像	3
第3章	計画の指標	4
1	目標年次	4
2	対象区域	4
3	将来指標	4
4	土地利用	4
第4章	まちづくりの方針	5
第5章	まちづくりの目標（施策の大綱）	6
1	だれにも優しい安全なまちづくり	6
2	希望に満ちた明るいひとづくり	7
3	潤いのある豊かなくらしづくり	8
4	活力とにぎわいのあるまちづくり	8
5	安心に満ちたまちづくり	9
6	共に助け合うまちづくり	10
7	市民と行政がともに進めるまちづくり	11

第1章 福生市におけるまちづくりの課題

【市の概要と総合計画の変遷】

福生市は、都心から西へ約40kmで通勤・通学に便利な一方、武蔵野台地の西端に位置し多摩川の河岸段丘上にひらけ、豊かな自然を有する奥多摩の山並みが近くに望めるまちです。横田基地が市域の約3分の1を占めているため、基地部分を除くと行政面積は26市中では2番目に小さいながら、JRの駅が3路線5駅あるなど鉄道交通の便に恵まれたまちです。道路交通網も整備され圏央道のインターチェンジにもアクセスしやすい環境にあります。このように、他の地域にはない利便性と特色のあるまちとして発展し、昭和45年に市制が施行されました。

福生市のまちづくりの最上位計画である総合計画は、これまで3期にわたり策定され、その時々時代の背景や市民の期待に基づきまちづくりが進められてきました。

昭和52年(1977年)に策定された第1期の総合計画は、シビルミニマム(市民生活に必要な最低限の環境条件)の視点から主として都市基盤及び生活基盤の整備を中心としたものでした。

平成2年(1990年)に策定された第2期の総合計画は、「市民からの発想」、「まちの個性からの発想」を基本理念に、「輝く街 福生」を目指し、「快適環境都市」、「風格ある都市」、「人生80年時代に対応する都市」、「産業に活力ある都市」が目標として定められ、まちづくりが進められました。

平成12年(2000年)に策定された第3期の総合計画は、市民一人ひとりが誇りと責任をもち、夢と希望をもって21世紀を歩んでいけるよう、その恵まれた自然環境と立地条件を最大限に生かしながら、将来に継承していく活力あるまちの創造に向け、「やすらぎ いきいき 輝く街 福生」を目標に設定し、まちづくりが進められました。

【福生市を取り巻く時代環境と課題】

第2期福生市総合計画期間中に地方自治を取り巻く環境は、地方分権という流れに大きく転換されることとなりました。第3期福生市総合計画がスタートした平成12年には地方分権一括法が施行され、本格的な地方分権の時代に入り、地方自治体は「地域の課題は地域で解決する」という自己決定・自己責任により、多様化・高度化する市民ニーズに対応することがより一層求められることとなりました。平成19年から始まった第2期地方分権改革により、地方自治体へのさらなる権限委譲が予定されています。このことは、議会は議決機関として、自治体の意思決定や執行機関を監視・評価する役割の重要性が増し、また、行政も執行機関として質の高い行政運営が求められ、福生市民も地域が抱える課題に対し無関心ではいけないことを意味しています。

そしてまた、地方自治を取り巻く環境は、本格的な少子高齢社会の到来、地球規模の環境問題への対応、高度情報化の進展など多くの課題が顕著となり、福生市においても財政状況が厳しい中、少子高齢対策、環境対策などをはじめ、さまざまな対応が進められてきました。

福生市の人口は平成 14 年の約 62,500 人をピークに減少に転じ、さらには年少人口（0 歳～14 歳）と生産年齢人口（15 歳～64 歳）の減少、老年人口（65 歳以上）の増加により、社会負担の増加と活力の低下が懸念されています。人口の減少は福生市に限らず多くの地方自治体の課題となっていますが、今後もより大きな課題として直面することが予想され、それに立ち向かうまちづくりが必要となっています。

<福生市における「人」づくりの課題>

これまで以上に多種多様な市民ニーズに対応するためには、市民と行政が強く連携し、創意と工夫を持ってまちづくりに臨まなければなりません。幸い、市民のまちづくりへの参画意欲は高まっています。市民一人ひとりが、責任を自覚し、互いに尊重し合い、協力してさまざまな課題に対応していくために、**まちを支える「ひと」づくり**をさらに進めるとともに、市民の自発的なまちづくり活動を支えることにより、市民のまちづくりに対する参画意識を醸成していくことが必要となっています。

<福生市における「街」づくりの課題>

都市化の進展により自然環境が失われつつありますが、福生市には多摩川をはじめ、玉川上水、分水、崖線の緑地など、自然環境が残されています。その上、交通の便が良く、さらに、生涯学習をはじめとした公共施設が充実するなど、利便性の高い地域特性を持っています。一方で、横田基地は市域の 3 分の 1 を占めており、都市計画に大きな影響を与えています。そこで、これまで以上に福生市が持つ地域特性、資源を十分に活用していく必要があります。今後、福生市の自然、歴史、文化、産業など、地域の資源を改めて見つめ直し、福生市にふさわしい活力のある「まち」づくりに取り組むことによって、**にぎわいのあるまちづくり**を進めることが必要となっています。

<福生市における「暮らし」づくりの課題>

福生市民の人口構造が大きく変わることが予測されるとともに、地域における人と人とのつながりが希薄になりつつある現実を踏まえ、お互いの顔が分かり、ともに助け合い、安心して生活できる生活環境の創造が求められています。そのため、“市民間の連携をはぐくむ” “人に優しい” “生活者の視点を大切にする” という考え方に基づいた「くらし」づくりに取り組むことによって、**住み続けたいくらしづくり**を進めることが必要となっています。

第2章 まちづくりの基本理念と都市像

【福生らしさ】

愛着が持たれるまちには個性があります。福生市には多摩川、玉川上水、段丘崖線の緑地等のやすらぎと潤いをもたらす自然的要素があります。福生不動尊遺跡や長沢遺跡から出土した遺物や集落跡からは、縄文時代早期にあたる約1万年前に人間の活動が展開されており、縄文時代中期にあたる約5000年から4000年前には大規模な集落を形成し、生活が営まれていたことが推定されます。「福生」という文字が初めて歴史に登場したのは11世紀後半で、16世紀には「福生郷」と称していました。19世紀には造り酒屋をはじめとする産業が生まれ、その後周辺地域の商業の中心として発展してきたという、他の地域にはない特色があります。

福生市が持つ個性、独自性、地域性に磨きをかけ、次代に伝えるために、まちを構成する3つの要素である『人』『街』『暮らし』それぞれに福生市ならではの特色を求め、そこに生活し、そこで交流する市民の視点に立った「人」「街」「暮らし」づくりに努め、魅力あふれ、誇りの持てる、愛着のあるまちづくりを進めます。

【市民とともに】

地方分権の推進により、自治体は自主性・自立性がより一層求められています。また、市民のまちづくりに対する要望は個別化、多様化しています。変化が早く複雑化する時代環境の中での福生市のまちづくりは、市民と行政との強い連携のもと、迅速に進めていく必要があります。

多くの市民がまちづくりに積極的に参加し、まちづくりのすべての段階で、市民と行政が役割を分担し、それぞれの責任を果たし、市民が主役の考えのもとまちづくりを進めます。

【目指すべきまち】

福生市は多くの人たちの努力によって発展を続けてきました。また、自然、歴史、文化、産業などかけがえのない財産がたくさんあります。これらの資源の活用を図り、福生らしい個性と魅力、にぎわいと活気を生み出し、すべての市民が心から「住んでよかった」、「住み続けたい」と思えるまちを目指します。

第3章 計画の指標

1 目標年次

基本構想は10年間の計画とし、目標年次を平成31年(2020年3月)とします。

2 対象区域

基本構想の対象区域は、福生市全域(10.24k m²)とします。

ただし、横田基地については無いことが望ましいものの、その存在を前提としています。(日本への返還が決定された場合には、新たな基本構想を策定するものとします。)

3 将来指標

福生市の将来人口は次のとおり推計されますが、政策目標は基本計画において設定するものとします。

項目		単位	平成17年10月1日	平成31年の推計値
総人口		人	61,074	56,000
年齢 三区 分別	年少人口 (0歳~14歳)	人	8,146	6,000
		%	13.3	10.7
	生産年齢人口 (15歳~64歳)	人	42,634	35,000
		%	69.8	62.5
	老年人口 (65歳~)	人	10,294	15,000
		%	16.9	26.8
世帯数		世帯	26,386	24,800
1世帯当たり世帯人員		人	2.28	2.26
外国人登録人口		人	2,265	2,300
就業率(%)		%	55.0	54.2
就業者数(人)		人	29,089	27,100
産業 別	第1次産業(人)	人	108	100
		%	0.4	0.4
	第2次産業(人)	人	7,686	7,200
		%	26.4	26.6
	第3次産業(人)	人	21,295	19,800
		%	73.2	73.0

4 土地利用

現状の利用状況をふまえながら、市内をいくつかのゾーンに分類し、利便性を生かしつつ貴重な自然を保全するなど、それぞれのゾーンの特色を生かした土地利用の配置を誘導します。

第4章 まちづくりの目標

基本理念と将来像の実現に向けて、次の7つの項目をまちづくりの目標とします。

- 「希望に満ちた明るいひとづくり」を目指します。
- 「だれにも優しい安全なまちづくり」を目指します。
- 「潤いのある豊かなくらしづくり」を目指します。
- 「安心に満ちたまちづくり」を目指します。
- 「活力とにぎわいのあるまちづくり」を目指します。
- 「共に助け合うまちづくり」を目指します。
- 「市民と行政がともに進めるまちづくり」を目指します。

第5章 施策の大綱（まちづくりの目標）

前章で示した7つのまちづくりの目標に基づく施策の大綱は次のとおりとします。

1 希望に満ちた明るいひとづくり

だれもが住んで良かった、住み続けたいと思えるまちは希望に満ち、暮らすことに誇りと喜びを持つ市民が住むまちです。

人づくりに大きな影響を与える教育は、その重要性が認識されるとともに大きな期待が寄せられます。福生市は、これまでも子どもたちが豊かな個性をはぐくみ、創造力を伸ばす教育を進めてきましたが、地域に信頼される学校づくりには、さらなる学力の向上、基本的な生活習慣の習得が求められています。

また、学校教育だけでなく、多くの市民が身近に住む子ども達をあたたくはぐくむ地域の教育力の向上も必要です。そのため、より良い福生にしようとする意欲と行動力を持った市民を一人でも多くはぐくむまちづくりがさらに求められています。

まちづくりには、ひとづくりが何よりも大切です。そのため、家庭、学校、地域社会の連携をより強化し、ひとづくりを進めます。生涯学習施設が充実し学習環境が整っている福生市は環境問題や地域の課題解決に主体的に取り組む市民の輪を大きくすることも可能です。

教育や文化の国際交流を盛んにすることにより、多文化が共生するまちづくりを推進します。

これらを総合的に推進することにより、まちづくりや行政運営に自ら参加する“考えて行動する市民”をはぐくむことを目指します。

そのため、次の3つの指針を掲げ、まちづくりに主体的に取り組む参画意識を強く持つ希望に満ちた明るいひと（福生人）づくりを推進します。

● 健やかに子どもが成長する教育環境の向上

学校・家庭・地域社会がさらに連携を強め、福生市の学校教育の内容を高めることによって、健やかに子どもが成長する教育環境の向上に努めます。

また、だれもが福生市の教育環境と成果を享受することによって、次世代を担う豊かな情操と国際性を備えた市民をはぐくみます。

● 市民力を向上する学習環境の充実

まちづくりを積極的に進める市民をはぐくむことにより、市民が地域の課題を主体的に解決できるよう、学習環境の充実に努めます。

● 地域を誇りに思う福生人のはぐくみ

福生を愛し、心に潤いをもたらす自然と歴史・文化を大切にし、地域を誇りに思う“福生人”をはぐくむ環境の充実に努めます。

2 だれにも優しい安全なまちづくり

だれもが住んで良かった、住み続けたいと思えるまちは環境に優しく、生活する市民への“優しさ”を持った“まち”です。

しかしながらこれまでのまちづくりでは、人より車優先、車で通過することの便利さ優先で進めてきた結果、市民が街の中を歩いて暮らす環境づくり等、人中心のまちづくりが遅れています。

そのため、だれにも優しいまちづくりには人中心、人優先のバリアフリー、ユニバーサルデザインの考えや環境負荷を低減する取組みが必要となります。

市民のだれもが気軽に街の中を歩けるように、また、だれもが自由に市内を移動できるように、そして、豊かで利便性があり、加えて、美しい都市環境の形成に向けてまちづくりを進めていく必要があります。

そのため、次の4つの指針を掲げ、市民の意見を積極的に取り入れながら、豊かな自然環境と調和した、より一層暮らしやすい、だれにもやさしい安全なまちづくりを推進します。

● 人を優先するバリアフリーのまちの形成

市民の声や生活者の視点に立った市街地の環境整備を進めるとともに、駅や公園、公共施設でのバリアフリー化を進めます。

また、生活道路や通学路の安全を確保し、歩行しやすい、自転車でも移動しやすい環境を整備することによって、人に優しい“福生デザイン”といえるまちづくりを進めます。

● 長期的な視点に立った新たな都市骨格の形成

人を優先するまちづくりの推進に合わせ、にぎわいと活気を喚起する長期的な都市骨格の形成に努めます。また、景観に配慮するとともに、土地利用の状況や交通網整備の状況を絶えず検証をしながら、市民が安全と利便性を享受する都市計画を推進します。

● 災害に強い安全な都市基盤の整備

地震や風水害等の災害に強いまちづくりに努めます。

高齢者や子どもをはじめ、すべての市民が安全に安心して生活し活動できる環境づくりに努め、市民の生命と財産を守る安全なまちづくりを推進します。

● 利便性の高い生活空間の充実

移動することが困難になると、人はその生活空間が狭くなりがちとなります。だれもが豊かな都市生活を営めることができるよう公共交通の充実に努めるとともに、高齢者や障害（児）者の日常的なサポートが充実したまちづくりを進めます。

また、情報社会に適応でき、その有害性を排除し、有用性を活用する市民を

はぐくむ環境の整備を進めます。

3 潤いのある豊かなくらしづくり

だれもが住んで良かった、住み続けたいと思えるまちづくりは快適な暮らしができる環境をつくることです。

しかしながら福生市では、新たな居住空間を確保する余地が少なく定住者を増やし難い環境にあることも事実です。そのため、少しでも新たな居住空間を提供することのみならず、市全体が生活の場として快適で暮らしやすいものになっているか、生活者の視点に立って常に点検、検証する努力をし、まちづくりを進めていくことが必要です。

福生市では、やすらぎを提供し、生活に潤いをもたらしてくれる多摩川や玉川上水、段丘崖線の緑地などの貴重な自然資源があります。それを守り続けることによって、市民の満足度を高めるとともに、市内の歴史遺産や文化遺産を守り生かすことで、福生市民の財産として誇れる福生ならではの景観を形成することが必要です。

そのため、次の3つの指針を掲げ、市民の意見を積極的に取り入れながら、すべての市民が誇りをもてる、潤いのある豊かなくらしづくりを推進します。

● ぬくもりと優しさを支える居住空間の確保

生活者の視点に立った良質な居住空間の安定的な供給の誘導によって、福生市への定住者の増加を目指します。都市型の災害に強い居住空間の確保を進め、安心して居住できる環境都市を目指します。

● 快適な生活環境の創出

資源が循環して活用される資源循環型システムの更なる構築に向け、市民参加を促進するとともに、生活環境の悪化に結びつく各種原因の低減化や、地球温暖化対策として低炭素社会の形成に努めることによって、快適な生活が営める環境都市を目指します。

● 潤いのある水と緑の保全と景観の創出

歴史や文化遺産を積極的に保全・活用し、福生ならではの景観を創出します。また、多摩川や玉川上水、段丘崖線の緑地、都市化された福生市に残された農地など、貴重な自然資源を保全し、水と緑の調和に努めることにより市民の憩いの場や、自然と触れ合う場が創出され、自然を大切に思う心を守り伝えるまちを目指します。

4 安心に満ちたまちづくり

だれもが住んで良かった、住み続けたいと思えるまちは安全で安心して暮らせるまちです。

福生市の中核的医療機関である公立福生病院の整備により、健康で安心して暮ら

せる環境が飛躍的に強化され、市民の健康づくりや高度医療を適切に享受できる環境が形成されつつあります。そこでさらに、お互いの顔が見える身近な地域のまちづくりを進め、人と人のつながりを大切にするることにより、健康で安心して生活できるまちになるはずです。

今後、高齢社会が確実に進む中、安心できる医療・福祉環境を維持、発展させつつ、地域の経験豊かな市民を中心に、互いに安全を見守るまちづくりを推進します。

そのためには、市民の医療や福祉ニーズを的確に把握し、市民をサポートする仕組みの充実を図るとともに、高齢者・障害（児）者・子どもなどすべての人に対応できる柔軟な福祉サービスの実現を図ることが必要であり、また、すべての市民がお互いに支えあい、育てあう環境づくりを進める必要があります。

そのため、次の4つの指針を掲げ、市民の意見を積極的に取り入れながら、だれもが住みたくなる、安心に満ちたまちづくりを推進します。

● 健やかに暮らせる安心なまちの確保

市民の健康増進を積極的に推進するとともに、市民への生活介護などの支援を充実することにより、市民が生涯健やかに暮らせる安心なまちづくりを推進します。

● 安心して子どもが育つまちの構築

子育て環境を整え、育児不安の解消に努め、子育てに喜びを感じることができる環境を整備します。

また、経験豊かな市民の力、地域の力を生かし子どもたちの安全を見守るなど、地域も次世代を担う子どもたちを育てます。

● 人に優しいノーマライゼーション社会の創出

市民の福祉に対する認識や理解の浸透と、心（意識）のバリアフリーの醸成に努め、市民のだれもがノーマライゼーションへの認識を深めることにより、生涯安心して暮らせるまちづくりを推進します。

また、生活上の困難や、障害を抱える市民を積極的に支えるまちづくりを推進します。

● 人と人とのつながりを大切にするまちの形成

思いやりの心をはぐくみ、人権を尊重し、偏見のないまちを目指し、市民のだれもが地域の中で差別のない平等な暮らしを営める、人と人とのつながりを大切にするまちづくりを推進します。

5 活力とにぎわいのあるまちづくり

だれもが住んで良かった、住み続けたいと思えるまちには活力とにぎわいがあります。

例えば、横田基地周辺の商業空間は地域商業者の創意と工夫により他に類を見な

い個性を有しています。しかしそれは一朝一夕に形成されたものではありません。今後、生活者の利便性の確保に向けた商業空間を創出するなど、商業者と行政の連携にはまだ多くの行うべき方策が残されています。さらに、若い人の活力が積極的に生かされるよう、福生市独自のにぎわいのあるまちづくりを推進する必要があります。

そのため、地域の商工業振興を図り、特に魅力ある商店街の振興を図る必要があります。地元商店の後継者不足や大型店の進出などといった状況の中で、にぎわいのある地域商店街づくりには、商業者自身の手による活性化の取組みのみならず、行政やそこに暮らす市民も一体となった取組みが必要です。そして、地域住民にとって親しみやすい魅力ある商業空間の形成のために、高齢者にやさしいバリアフリーへの配慮など、まちづくりの総合的な視点に立った商店街づくりを進める必要があります。

また、職・住が調和したまちづくりを進めることにより、市全体の経済活動の活性化、雇用の場の確保に取り組むことを目指します。

そのため、次の3つの指針を掲げ、市民の意見を積極的に取り入れながら、多くの人々が交流をする、活力とにぎわいのあるまちづくりを推進します。

● 活力とにぎわいと助け合いのある商業環境の形成

地域商業者との連携を強化し、高齢者に優しい商業集積を促すなど、年代を問わずそこに暮らす市民・消費者のニーズに適応する商業の振興に努め、活力とにぎわいのある都市づくりを目指します。

● 雇用を促進する地域産業の強化

福生市に立地する地域産業との連携を強化するとともに、新たな地域産業に結びつく環境整備を図るなど起業化への支援を充実することにより、福生市全体の雇用環境の向上を図ります。

● 人と人が行き交う交流環境の充実

福生市の地域資源を活用した歩きたくなる街並みの形成等、都市型観光を推進し、市民のみならず、市外の多くの人々が行き交う機会の創出に努めることにより、交流環境の充実を図ります。

6 共に助け合うまちづくり

だれもが住んで良かった、住み続けたいと思えるまちの実現には市民と行政のコミュニケーションの強化に努め、まちづくりに市民が自ら参画することが大切です。同時に、地域住民が相互に連携し、助け合うことも求められています。

しかしながら福生市では、町会・自治会への加入率が低下している現実があり、地域コミュニティの再生や活性化は喫緊の課題のひとつとなっています。また、地域社会への参加意識の低下に歯止めをかけ、地域づくり・まちづくりへの意識の向

上も課題となっています。

そこで、市民のだれもが気軽に参加できる地域コミュニティがあることが望まれます。福生市ではその地域の特色を生かした自立した活動が行なわれていますが、異世代間の交流をさらに進めるなど、地域コミュニティの再構築を積極的に推進することが必要です。また、市民と行政がさらに情報の共有化を図り、地域を越えた市民活動が活発に行なわれるまちづくりや、市民のニーズが適切に反映されるまちづくりも必要です。

そのため、次の3つの指針を掲げ、市民の意見を積極的に取り入れながら、多くの市民の参画による、共に助け合うまちづくりを推進します。

● 市民が互いに助け合う自治力の強化

市民が互いに助け合うネットワークの構築をさらに進め、協働と共生のまちづくりを推進します。そのため、町会・自治会をはじめ、公益的な市民活動団体への支援を行うとともに、行政の持つさまざまな情報を市民に的確に提供し、市民の声が行政により届きやすい仕組みづくりを推進します。

● 市民活動の促進

市民と行政の情報の共有化をさらに進め、まちづくりに参画する市民意識の醸成を図り、人材の積極的な育成を進めるとともに、市民の自発的活動が円滑に行われるよう支援に努め、市民活動を促進します。

● 人と地域のつながりを強める交流の強化

地域のコミュニティ活動が身近なものとなるよう、活動しやすい環境を整備し、地域のつながりを強化します。

7. 市民と行政がともに進めるまちづくり

だれもが住んで良かった、住み続けたいと思えるまちにはまちづくりへの市民参画と健全な行政運営が不可欠です。

福生市が魅力的なまちとなるためには、市民とともにまちづくりを進めていく意識を持った職員の育成に努める必要があります。

しかしながら市民参画の推進を図っているものの、「協働」の概念や形態は確立した一義的なものではなく、いまだ、市民と行政職員の意識の間に隔たりが見られることも事実です。そこで、福生市の「協働」のあるべき姿を市民、行政双方が確認し続ける必要があります。

また、地方分権の推進によって地方自治体の自主性がより一層求められることとなり、市民の代表である議会の役割も重要になっています。自治体の意思決定機関としての役割や、執行機関を監視・評価する機能をより発揮していくことが求められ、その権能を通じ、福生市の課題を明確にし、健全な自治体経営の一翼を担うことが期待されています。

近隣自治体に比しこれまで比較的安定的な財政状況にあった福生市ですが、財政力が低下していることは事実であり、市民ニーズへの対応力の低下を避ける必要があります。そのために、行財政改革を徹底し、職員一人ひとりがコスト意識を持ち、効率性の高い行政運営を進めると同時に、社会の変化に柔軟に対応し地域の課題を市民の理解を得て市民とともに解決していく姿勢を持つ職員でなければなりません。

そのため、次の4つの指針を掲げ、市民の意見を積極的に取り入れながら、市民に信頼される行政運営に努め、市民と行政がともに進めるまちづくりを推進します。

● 市民参画の推進

政策形成の段階からの市民参加等、常に市民に参画を求め、市民の声が行政により届きやすい仕組みづくりに努めます。また、行政は説明責任を果たすため、市政に関する情報をわかりやすく積極的に提供します。

● 自治力を高める行政運営の推進

市民ニーズを的確に把握し、地方自治を主体的・積極的に進める職員意識の醸成と、能力向上に努め、対応力のある行政組織の構築を図ることによって、市民に支持・信頼される行政運営を進めます。

● 行財政改革の推進

多様化する行政需要や地方分権の推進による新たな事務事業に対応するため、福生市行政改革大綱に基づき、行財政改革を推進し、安定的な財政運営を図ります。

● 広域的な行政運営の推進

市民サービスの向上と、効率的な行財政運営を図るため、周辺自治体とのより効果的な連携をさらに進め、広域的な行政運営の推進に努めます。

また、警察、消防、鉄道会社など、まちづくりに大きくかかわる機関との連携を強化します。